

平成26年12月19日（金）
芦屋市企画部企画課

第2回 文化振興審議会資料 （平成26年度第1回文化振興審議会の意見まとめ：次期計画について）

1 次期計画について

(1) 平成29年度からの次期計画について

① 施策の柱について

- ◎現在の施策である「地域の伝統的な文化の保存」については、市民文化政策へ組み替えるべきである。（地域とはコミュニティのこと）
- ◎芦屋をベースに、日本全体やグローバルに展開していく性質のものについては、都市文化として扱うべきである。
- ◎「固有の文化資源を活用した地域づくりの推進」を「固有の文化資源を活用した文化都市芦屋の推進」もしくは、「文化都市芦屋を目指した、総合的な文化戦略の構築と推進」などに変えることも一つである。
- ◎参画と協働についても施策に入れるべき。

② 都市文化政策としての芦屋ブランドについて

- ◎他市と連続性のある地域においては、他市と違った政策を展開するか(棲み分けを図るか)どうか、次の計画の中での課題である。
- ◎阪神間における芦屋の位置付けどう考えるのかが重要ではないか。
- ◎他市との連携に関する取組としては、西宮から東灘にかけて、都市の特徴を活かした文化エリアを構築するなどを戦略的に検討してはどうか。
- ◎住み良いまちナンバーワンを死守すべきで、文化度の高い市民が住んでおり、文化を高めること自体がまちのブランドに繋がっていくのではないか。
- ◎観光関連の事業についても、芦屋は全然お金をかけていないので、もう少しお金をかけるべきではないか。
- ◎芦屋の魅力が何なのか、（産業に期待するのか、市民の力を活用するのかなど）真剣に考える必要がある。（場合によっては、民間の力にまかせることも重要）
- ◎サロン文化として、閉鎖的な空間で行われている活動を表に出すような取組（芦屋の公共施設を活用してもらい、若い人たちや近隣に向けて発信するなど）が必要ではないか。
- ◎参画と協働が重要。産学官といった場合、芦屋では民をどう活用するかが重要なポイントである。いろんなプロデューサーを入れることが重要ではないか。

(2) 文化圏の考え方について

- ◎芦屋で文化を享受するということは、近隣市のホールを利用していることやインターネット等による文化情報を得ている場合がある。

◎芦屋市が住みやすいという意見の中には、芦屋市の行政によるものではなく、他のいろいろな要素があることを踏まえる必要がある。(県や他市のホールを利用しているなどの外的な要因も含まれる)

(3) 政策の考え方

◎市民文化政策：公平かつ平等な機会を提供すべき政策
(人権，障がい者，母子家庭等々)

◎都市文化政策：芦屋の都市発展・都市格を上げるための文化政策

アンケート項目(例)

1 都市文化政策について

例)芦屋ブランドを例にした場合

【Q1】芦屋ブランドと聞いて思い浮かべるものは何ですか？

【Q2】芦屋ブランドを構成する要素は何だと思えますか？

【Q3】芦屋市の地域資源とは何だと思えますか？

【Q4】芦屋市の文化と言えれば何を思い浮かべますか？

【Q5】芦屋の文化を感じる取組（事業）と言えれば、何を思い浮かべますか？

例)こども向け事業の展開に特化した場合

【Q1】学校においてどういった文化事業の展開を期待しますか？

【Q2】幼稚園や保育所においてどういった文化事業の展開を期待しますか？

【Q3】こどもに伝えたい芦屋市の文化とは何ですか？